

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 1月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502397		
法人名	有限会社レストケア		
事業所名	グループホーム ビーぐるマルシェ		
所在地	〒060-0002 札幌市南区川沿16条2丁目4番17号 (電話) 011-573-8222		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】 (20年10月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	11月	25日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	17人	常勤	11人,	非常勤 6人, 常勤換算 11.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1～	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円～40,000円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 25,000円	冬期暖房費 11,000円	(11月～3月)
敷金	有 (60,000円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 50円
	または1日当たり		1,100円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	10名	要介護4	6名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	73歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ときわ病院、医療法人仁友会 日之出歯科真駒内診療所、もなみクリニック、医療法人社団 土田病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、看護師としての長年の経験の中からこの事業所を立ち上げた経緯がある。自分の手で食べて、自分の足で歩いてトイレに行くという当たり前の生活を維持、支援できるよう一人ひとりに寄り添いながら職員はリハビリに力を注いでいる。閑静な住宅地の一角に違和感なく立地しており、近くには、大型スーパーや公園もあって地域の中に溶け込んだ生活ができています。町内会行事には利用者と職員が共に参加し楽しまれ、事業所内の敬老会、クリスマス会には踊りや、手品などのボランティアの慰問を受けたり、生活の活性に繋がり笑顔も多い。介護の実習生も受け入れ地域の中で認められた事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価課題の「災害対策」については消防署の指導の下、防火訓練、避難訓練を実施し、近隣の住民へ支援体制を働きかけるなど改善に向け取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で協議を図り、指摘を受けた課題については話し合いを重ね、具体的に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2～3ヶ月に一度定期的に開催されている。会議では事業所の様子やサービスの取り組み、ボランティア活動の流れ、自己評価について報告し、意見や要望は、事業所のサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には、来訪時に積極的に声掛けして意見や要望を聞き出せる様に対応している。遠方で面会の少ない家族には毎月「ホーム便り」を送付したり電話連絡で利用者の暮らしぶりを報告し、意見や要望を頂いている。金銭出納については、家族の承諾を得て3～6ヶ月に一度の報告に留まっているが毎月報告する事が望まれる。職員の異動についても家族も関心の有る事なので、その都度の報告を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は町内会に加入して、「ホーム便り」を毎月回覧板にて配布したり、地域の清掃活動や老人会の行事等、利用者と職員と一緒に参加し楽しんでいる。地域の中で馴染みの関係が築かれている。運営推進会議の後には昼食会を設け、更に親睦を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	この事業所は、地域の中で利用者が自信を持ち安心を感じて、自然に暮らし続ける為の独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、個人を尊重し、日々、地域の中でその人らしく生活できるように毎朝、理念を復唱しているが、運営者がこの事業所を立ち上げた強い思いを全職員間で共有していない。	○	運営者の高齢者に対する強い思いを職員全員に伝えて共有することで、更に理念の実践に有効的な取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入しており、「ホーム便り」を毎月回覧板にて配布したり、地域の清掃活動や老人会の行事等、利用者と職員が一緒に参加し楽しんでいる。地域住民とは馴染みの関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で協議を図り、指摘を受けた課題については話し合いを重ね、改善に向けて具体的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2～3ヶ月に一度定期的開催されている。会議では、事業所のサービスの状況、ボランティアの活動の流れ、自己評価について報告し、検討のうえ、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、運営推進会議、管理者会議等に参加して情報を共有している。		

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、「ホーム便り」を毎月家族に送付したり、来訪時に報告している。遠方で来訪できない家族には電話で伝えている。金銭出納に関しては承諾を得て3～6ヶ月の報告に留まっている。又、職員の異動については未報告である。	○	金銭出納について家族への報告は、毎月の「ホーム便り」を送付と同時に細やかな報告を期待したい。職員の異動についてもその都度の報告が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では、家族の意見、不満、苦情については様々な場面で表出できるように対応している。事業所内の苦情対応者も重要事項説明書等に明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る場合は利用者から教えてもらう場面作りをし、信頼関係を築くように努めている。管理者は利用者のダメージを抑えるため職員の異動を最小限にする配慮に心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
------	------	----	---------------------------------	--------------------------	-----------------------------------

5. 人材の育成と支援

10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、段階に応じて職員研修を計画している。今年度は、ケアマネ研修、ケアプラン研修を始め多種の研修を受講し報告書を作成している。研修後カンファレンスにて報告を行い、全職員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、職員が地域の同業者間の相互訪問交流や事例研修等を企画し、仕事のシフト体制を調整して職員が参加できる様に努め、同業者との交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、家庭訪問で本人、家族と話し合い、事業所見学で食事を共にしながら納得頂いて利用できるように支援している。		
----	----	---	---	--	--

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の性格や生活歴に配慮しながら編み物や、料理を教わったり、喜怒哀楽を共にしながら支えあう関係を築いている。		
----	----	--	--	--	--

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、家族が遠方で面会が少ない利用者には配慮するなど、入居者一人ひとりに寄り添い意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い利用者、家族の意見を取り入れながら、職員間で話し合い、計画策定者がまとめて介護計画を作成している。利用者、家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。利用者の状況に変化が生じた場合にはその都度見直しを行い、家族とも話し合っって適切な計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況を見極め、家族の予定や要望に応じ、一時帰宅やドライブ、食事会、通院支援等柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
------	------	----	---------------------------------	--------------------------	-----------------------------------

4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の医師、看護師とも、馴染みの関係を築き気軽に健康相談を受けている。歯科も2～3ヶ月に一度の往診で連携は取れている。利用前からのかかりつけ医の継続については、家族が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では、入居時に重度化した場合や終末期の在り方について話し合い、その都度状況に応じて本人、家族、医師、職員と話し合い方針を共有している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1)一人ひとりの尊重

20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は、言葉掛けや誘導にはプライドに配慮した対応を行っているが、居室の目につきやすい場所にオムツが保管されていたり、面会簿や個人情報等の取り扱いにも配慮に欠ける場面が見られた。	○	共用空間に設けられている面会簿が連名記帳になっているが個別記帳などの工夫が望まれる。利用者の居室の目につきやすい場所にオムツや尿トリパットが保管されているのでカーテンをつけたり、保管場所を変えるなど工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者それぞれのライフストーリーを作りながら個々の希望に沿った関わりを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、3回の食事に重きを置き、調理や、盛り付け、食卓の演出に利用者が楽しみながら出番を見い出せるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者同士で楽しんでもらったり、「寒い」と言って入浴を拒む利用者には、浴室や脱衣場を温めるなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者それぞれの力量や状況に合わせて、調理の下ごしらえ、盛りつけ、洗濯物たたみなど職員と共に行い、できるだけ役割を持って生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望によって菜園に出掛けたり、花壇の手入れ、公園散歩、地域交流への参加等で楽しんでいる。冬季間は事業所内の廊下を歩いたり、階段の昇降で筋力の低下による転倒を予防している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中玄関の鍵をかけない取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は、夜間を想定した通報、誘導、消火等連絡体制も含め定期的に行われている。災害時には、地域住民の協力も得られるように働きかけている。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者に委託し、食材の調達も行っている。カロリーや塩分、栄養バランスも管理され高齢者に配慮された食事内容になっている。調理は職員が行い嚥下力の弱い利用者、食べる事を忘れる利用者、それぞれの状態や習慣に応じた支援を行っている。		
----	----	---	--	--	--

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広くゆったりとしていて車椅子の利用にもスムーズに対応出来る構造になっている。居間は加湿器の設置により、乾燥もなく、植物や手作り作品が季節感を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、本人、家族と相談して収納ボックスや、衣類掛けなど使い慣れている物を持ち込んでその人らしく生活している。		

※ は、重点項目。